

# クローズアップ 農家



▼収穫作業を行う桜田さん



▼サクサクの食感とほろ苦さが魅力



昨年4月から、JAあきた白神山うど部会（部会員数81人、平成23年3月末）の部会長に就任した、桜田和浩さん。父親が行っていた山うど栽培に、本格的に取り組むようになってから、今年で17年目を迎えます。

東北有数の産地である、当JAの『白神山うど』。今年度は天候不順による生育不足の影響もあり、販売高は1億7千万ほどを見込んでおります。

「ここ数年は異常気象で、定植や株の充実が計画通りにいってない。今後は肥培管理など、栽培方法の改善を行い、気候の変化に対応していきたい。また温度管理に

## 経営規模

・水稲 13 ha  
・山うど 2 ha

も気を配り、冬は保温を、春先はハウス内が高温にならないように心掛け、品質の良い山うどの収穫に繋げたい。」と桜田さん。

今後部会では品質にこだわりの出荷規格や食味の統一を図ると共に、キャンペーン等を通じて、県内外の人々に山うどの良さを広め、ブランド力強化に努めます。

また、部会員と作付面積の増加を図りつつ、栽培技術向上を積み重ね、全国一の山うど産地を目指します。

## 国の根本である 農業を守る Vol. 11

JAあきた白神山うど部会長

能代市二ツ井町切石

桜田和浩さん(47)